

* 11 ページからの続き

タックシステム

同社では2日間にわたって「iZotope RX 新機能」セミナーを開いた。同セミナーでは、現在オーディオレストレーション・ソフトウェアとしては不動の人気を誇る米国iZotope (アイソトープ)社の「iZotope RX」がバージョン6を発表し、その新機能を発表したもので、衣擦れを取る「De-Russle」、吹かれ音を取る「D-Wind」やダイアログだけを抽出する「Dialog Isolate」など再び数々の機能を追加した「RX6」は、NABショーにおいて、多くの来場者を集めていた製品である。

一方、ブースでは同社オリジナルのスタジオ・モニター・コントローラ「VMC-102」、AVID「S3 + Pro Tools | Dock」、ADDER デジタルKVMシステム、FastNAS デジタルメディアワークフローサーバ、Decimator Design ミニコンバータ、マルチビューワーを紹介した。

■TACSYSTEM「VMC-102」: 同社オリジナルのMADI接続により非常にフレキシブルな対応が可能なスタジオ・モニター・コントローラ「VMC-102」の最新バージョン。(写真左)



■JLCooper Electronics スイッチャー・コントロール・サーフェス「PROTON」は、ラ

イブ制作環境での迅速な映像切り替えを可能にする完全装備の小型ハードウェア。このデバイスで、Blackmagicdesign製のATEM 1 M/E プロダクション・スイッチャー、ATEM プロダクション・スタジオ4K、ATEM 1 M/E プロダクション・スタジオ4K、そしてATEM テレビジョン・スタジオモデルを操作することができる。迅速かつ直感的で、低コストのPROTONは、モバイル環境、スポーツ中継、企業内使用、コンピューターなど、多種多様な環境で活躍する。



スイッチャー・コントロール・サーフェス「PROTON」

■ADDER: 現在最も信頼性の高く技術的に先行しているKVM (キーボード・ディスプレイ・マウス)システムを提供する英国ADDER (アダー)社は、高解像度のKVM エクステンダー「XD-522」の新しいファームウェアの4K対応および、低価格帯のKVM マトリクス「XD-IP」を発表した。「XD-IP」は、Infinity シリーズの流れを踏むIP ベースのKVM マ



トリクスで最大8x8のマトリクスまでの小規模なシステム化に最適で、マネージメントユニットの必要もなくPOE ネットワークスイッチからの電源供給でシステム構築が可能でコンパクトな設計となっている。

また、PC側に接続する送信側のユニットにもKVMを接続して操作環境が組め、送信側と受信側の区別がないためシステム変更時に使い回すことができるなどフレキシブルなシステムとなっているため、従来のエクステンダーと切り替え機や分配器といったシステムの組み方に代わり、安定したKVM環境を自由に構築できるものとなるだろう。

■MUXLAB: ユニークな非圧縮HD-SDのオプティカル伝送機器を提供するカナダのMuxlab (マックス・ラボ)社は、4系統のHD-SDIともう1系統のスイッチャーなどからのリターン信号を双方向で光伝送する「Model 500734」(価格未定)とIPベースで4K非圧縮のSDI信号を「Model 500734」は、4系統のHD-SDIもしくは、2系統の3G-SDIまたは、1系統の6G-SDIの伝送が可能となっている。

ニューエックス(NEWX)

ファイルベースインサート編集ソフトウェアである「cineXinsert」、現場での撮影データバックアップを実現するNEXTO DI社の「NEXTO CARD BATCHER」、Thunderbolt接続のLTO-7テープドライブ mLogic社「mTape LTO7」を展示紹介。

「cineXinsert」は、NLE編集完成後に書き出したフラットファイルにインサート編集を可能とするcinedeck社のスタンドアローン・アプリケーションソフトウェア。通常のNLE編集で手直しをする場合、完成ファイルを書き出す



ファイルベースインサート編集ソフトウェア「cineXinsert」をデモ

ために全編レンダリングしなければならないが、cineXinsertの場合は同社の技術により直接インサートするデータを差し替えるのみなので作成時間を大幅に短縮することができる。音声トラックも後から追加したり、データの差替えや移動も可能でMAデータ(WAV)をもらった後でも時間をかけることなく完パケを作成することが可能。コーデックもXDCAM、XAVC、AVC Intraなどに対応し、解像度もSD~4K/UHDまで作成可能。

「NEXTO CARD BATCHER」はメモリー取



複数のメモリーカードを高速にバックアップするソリューション、NEXTO CARD BATCHER

録のカメラで映像データを現場で即時にバックアップするためのポータブルバックアップシステム。ベリファイ機能を搭載し安全に複数のメモリーカードからUSB3.0接続のストレージデバイスへ2台平行同時コピーを実現。2.4" TFT LCDモニターでバックアップ状況を確認できる他、映像のモニタリングも行える。メモリーカード種類別にラインナップを揃えており、SDカードはもちろんのことCFast、XQD、SxS、P2、Express P2、RED MINIMAGモデルがある。

mLogic社「mTape LTO7」はThunderboltに対応したLTO-7テープドライブ。オフィスやロケ現場など移動や可搬を考慮した小型筐体でDC電源も備えている。NEWX社が扱うImagineProducts社PreRollPost LTFSアーカイブソフトウェアに対応の他、Retrospect、StorageDNA、XenData、YoYottaなどのバックアップ/アーカイブソフトウェアに対応している。

ソニー

主催者側セミナーでは「広がるIP Live プロダクションシステム」と題して開催。同社では、「HDR ライブ制作ワークフロー"SR Live for HDR"」「放送業界向け特別リースプランのご紹介」「長寿命／高安全なリチウムイオン電池「フォルテリオン」を搭載した放送中継局（送信所）用直流電源装置（48V系）のご紹介」「ENGスタイルでの4Kワークフローについて」「S-Logの基礎とインスタントHDR概要」の5つのタイトルのセミナーを行ったほか、主催者セミナーでは「広がるIP Live プロダクションシステム」と題して同社のIP Live プロダクションシステムを事例と技術解説で紹介するセミナーを実施した。ブースでは、NABショーに出展した機材・システムを中心に展示。



▲4K映像のレコーディングやバックアップの際に使用するプロフェッショナルRAID、ポータブルストレージなどを紹介したコーナー

「SR Live for HDR」ワークフローをチャートとモニターで解説し（写真左）、4K HDR とHD SDR の同時制作を実現する「SR Live for HDR」や、ハンディカムコーダーによるインスタントHDRを提案。

また、大容量記録と高速転送を低コストで実現するオプティカルディスク・アーカイブ第2世代、コンパクトライブスイッチャーなど、最新の映像制作ソリューションを紹介した。

キヤノン

CINEMA EOS、放送用4K レンズ、産業用ドローンなどを展示。発売開始直前（7月31日）となる最新のEOSシリーズ製品をブース前面にて紹介。

本展にて発表した製品は、4K UHD 60P & Cinema RAW Light を搭載している「EOS C200」と「EOS C200B」の2モデル展開のカメラで、「EOS C200」は、従来のCINEMA EOSの良さを踏襲し、すぐに箱から取り出して使えるオールインワンカメラ。

また「EOS C200B」は「ジンバル・ドローンなどの撮影の際に、最適にカスタマイズして使えるカメラ」というコンセプトカメラである。また、同展におけるもう1つの新製品は、キヤノン製多目的カメラ「ME20F-SH」を搭載したプロドローン社製全天候型災害対策用ドローン「PD6E-2000-AW-CJ1」に搭載した災害対策用ドローンで、こちらも7月に発売開始した製品である。

その他EOSシリーズでは「EOS C300 Mark II」「EOS 5D Mark II」や「EOS 700」を。また「CJ20e×7.8B IASE S」「CJ12e×4.3B IRSE S/IASE S」などの4K対応レンズを展示紹介した。

ドローンの展示紹介コーナー▶



富士フイルム/武蔵オプティカルシステム/緑屋電気

富士フイルム(株)、武蔵オプティカルシステム(株)、緑屋電気(株)と共同ブースにて出展。フジノンレンズ放送用ラインナップの紹介をはじめ、LEDフラットライト、ワイヤレスタリシステム、マルチパス映像処理機、色管理総合ソフトウェアなど、スタジオ周りの各種製品を紹介した。

今年のNABショーにおいて発表したレンズ3機種は、小型・軽量なポータブルズームレンズ「FUJINON UA18×5.5」「FUJINON UA14×4.5」と、27倍のスタジオズームレンズ「FUJINON UA27×6.5」であるが、従来からの4K対応の放送用レンズに3機種を加え、全7機種の充実したラインナップで、世界的に拡大する4K映像制作のニーズに応えていく。

また「UA18×5.5」「UA14×4.5」「UA27×6.5」の3機種は、画面周辺の解像力低下とあらゆる収差を抑えることで、ズーム全域で4K画質を実現した放送用ズームレンズであるが、そのうち「UA18×5.5」と「UA14×4.5」は、小型・軽量ボディによる高い機動性を実現したポータブルレンズで、近年の小型・

軽量のカメラ「4Kカムコーダー」の登場により、ますます増えることが見込まれる肩担ぎスタイルでの4K撮影で威力を発揮する。

「UA18×5.5」は、5.5mm～100mmの焦点距離を1本でカバーし幅広いシーンの撮影が可能。質量約2.04kgながら、広角5.5mmから望遠100mmまでの焦点距離を1本でカバーし、報道や、各種番組制作のロケなどの機動が必要とされる撮影現場にも対応する。

「UA14×4.5」は焦点距離4.5mmの超広角レンズであるため臨場感ある撮影ができる。全長約238.5mmの小型ボディで、超広角4.5mmの焦点距離を活かし、スポーツ中継や、各種番組制作のロケなどで奥行きのある臨場感溢れる映像を撮影することが可能である。

「UA27×6.5」は、焦点距離6.5mm～180mmまでの4K対応の27倍ズームレンズで、同社独自の多層コーティング処理「HT-EBC（High Transmittance Electron Beam Coating）」を施し、高い透過率や色再現性を実現。最新の光学シミュレーション技術を活用し光学設計を新たに行い、画面周辺の解像力低下とあらゆる収差を抑えることで



マルチパス映像処理機、色管理総合ソフトウェアなど、レンズ以外の各種製品も紹介

ズーム全域で4K画質を実現。9枚絞り羽の採用により、円形に近い絞り形状となっている。広角6.5mmから望遠180mmをカバーするが、焦点距離を2倍に延ばすエクステンダー（焦点距離を延ばすレンズ）をレンズ本体に内蔵しており、エクステンダー使用時でも高精細な画質を維持しながら焦点距離を360mmまでカバーする。最大口径比F1.5の大口径レンズも搭載。また、ズームやフォーカスの位置情報などのレンズデータを高分解能で出力可能な16bitエンコーダーを標準装備している。

アストロデザイン



4Kスーパーのソリューション、4KのHDRソリューション、4K切り出し装置など、4K映像制作現場で活躍中の製品群を展示紹介した。

■HDR/4K対応ウェブフォームモニター「WM-3206B/WM-3206B-A」:ピクチャー、ウェブ、ベクトル、ヒストグラム、ステータスをモニターに表示させる。ピクチャーの拡大と表示位置の調整、ピーキング調整および色選択、マーカー表示、波形表示成分(YPBPR/RGBなど)の選択やオーバーレイ表示などの特徴がある。

■4Kコンバータボード「SB-4024」:4KとHDの入出力に対応した、解像度変換、フォーマット変換、色域変換が可能なコンバータボード。使用できる筐体は、ソニー社製 SIGNAL PROCESSING UNIT NXL-FR318と、アストロ製PROCESS BOXから選択できる。なお同展ではSB-4024を2枚実装した1Uラックサイズの製品を出品した。

■MPEG2-TSマルチプレクサ「CX-5528A-F」:素材の中継伝送用に特化したTSマルチプレクサで、従来必要だったTSマルチプレクサへのPAT/PMTの作成・登録が不要になり、使い勝手が大幅に向上している。入力TSのPAT/PMT構成に自動追従して、マルチプレクサ内部でPAT/PMTおよびPIDを再構成することで、各TS入力の各programを1本のTSにMUXして出力することができる。また、プリセットパターンは最大16個まで登録しておくことが可能で、幅広い用途に使用することが可能。

そのほかPostium社製4K/17インチ「OBM-U170」と4K/24インチ「OBM-U240」の液晶モニタを展示した。

パナソニック

非圧縮4K出力360度ライブカメラ、5.7Kコンパクトシネマカメラ、屋外対応HDインテグレートドカメラ、業務用カムコーダー、POVCAM、コンパクトスイッチャー、LCDモニターなどの各製品を出品。高画質撮影から編集・送るまで、革新的技術によるトータルソリューションの提案を行った。

映画制作用4Kカメラレコーダー「VARICAM LT」をはじめ、1.0型センサー搭載レンズ一体型の4Kバンドヘルドカメラレコーダー「UXシリーズ」、非圧縮4K/30p出力対応の「360度ライブカメラ」などのスタジオAMやイベントのライブ配信で活躍するカメラを紹介。

スタジオサブシステムでは、4K/HDスタジオハンディカメラ「AK-UC30003G/4K」対応ライブスイッチャー、OTC、アーカイブシステムなどを一堂に集結する。

また、6月に発表し、間もなく発売予定のシネマコンパクトカメラ「AU-EVA1」を同展でも参考出品。新開発の5.7Kスーパー35mmイメージセンサーを搭載し、4K/10ビット、4:2:2収録が可能。14レンジのダイナミック

レンジ、二重感度ISO 800 & 2500、EFマウント、4K 10ビット4:2:2 & RAWなどのスペックを持つ製品

シネマコンパクトカメラ「AU-EVA1」で、ハンドヘルド撮影向けのテラーモードで、ドキュメンタリー、コマーシャル、ミュージックビデオにも適している。

一方、4Kマルチパーパスカメラでは「AK-UB300GJ」を出品。小型・軽量で多彩な機能を搭載した4K対応マルチパーパスカメラで、スポーツ中継やライブイベント、スタジオ撮影から空撮まで、多彩なシーンで活躍する多目的な4Kカメラである。撮影シーンに応じた2つ



4Kマルチパーパスカメラ「AK-UB300GJ」

伊藤忠ケーブルシステム

昨年10月に報映産業と統合してから本展は初めての出展となるが、アビッドテクノロジーと共有して出展。

テレビ朝日との共同開発による「送り返し用 超低遅延IP伝送システム」や、BitNote「ファイルベース コオリティー チェッカー」。放送局向け音声システムとしては、BWF-J対応録音・再生・編集アプリケーション「PREVIEW」、ラジオ放送局向けCDライブラリ+電子キューシート「CLASS」、ワンマンDJ対応スタジオ・システム「CLASS-PAD」を紹介。

また、FACILIS TECHNOLOGY製品では、8ドライブ/16TBのコンテンツ制作向けターンキーシステム「TerraBlock 8D」を出品。ラックマウント可能な2Uの小型サイズながら、TerraBlockシリーズの各モデルと同様に、Facilis共有ファイルシステムやバーチャルボリュームをサポートする。標準搭載の4x1GbEポートをFibre Channelや10Gbイーサネットに変更し、既設ネットワークへ接続することで、費用効果の高い拡張が見込める。また将来の事業拡張に対応し、他のTerraBlockと接続して運用することも可能である。

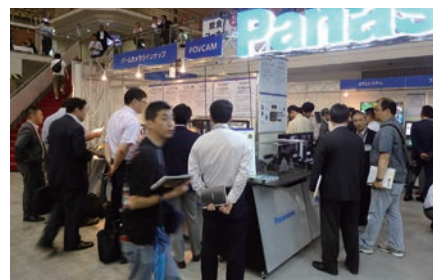
また、新たにリリースされたTerraBlock Version 7.0 Webベースコンソールも紹介した。

そのほか、220TBへと進化し続ける富士フィルムの磁気テープの紹介や、アビッドテクノロジーのコーナーではAvid Nexis、Avid Artist | DnXIQの展示・紹介を行った。

TerraBlock 4K 共有ストレージソリューション Ver.7.0 web ベースコンソールリリース

主な新機能

- モバイル/タブレットでもWEBコンソール使用可能。
- リモートボリュームをプッシュ可能。
- オートIPディスカバリー。
- クライアント使用帯域モニター。
- LDAPリアルタイムルックアップ。
- MUJボリュームでもブロックレベルマウント可能。
- ユーザ数・最大マウント数の無制限化。



の感度モード(高感度モード/標準モード)を選択でき、新開発の霧除去技術や、オプションボード12G出力ボード、3G TICO UHD出力ボード)差し替えによるケーブル1本での伝送など、使いやすさを追求している。

また、フォーカスアシスト機能、4KからのHDクロッピング機能も搭載。さらに、HD-IPストリーミング出力とIP制御も行えるため、メーカー製システムカメラAWシリーズとシステムを一元化することができ、柔軟性・拡張性のある運用を実現している。

新世代4K大判センサーに、外付けアダプターなしで2/3型レンズを使用することができ、大判センサー専用設計した変換レンズで高画質を実現。新撮像方式により入射光を最大限に活用し、高いダイナミックレンジを実現する。

東京光音

“未来へ遺すため、あきらめない”という志のもと、フィルムやテープに記録されている映像の修復やデジタル化を行っている同社では、セミナーにおいて「眠っている映像資料のつかいかた」と題して、映画フィルムや古いビデオ、音声テープ、レコード等のアナログ視聴覚資料の利活用を目的に、今、視聴覚資料に起こっている劣化の問題と劣化資料をどのようにに取り扱い、どのように対処すればよいのか、実際の作業事例を交えながら解説。ブースでは、「ふるさと再会」と題して、九州地

区の貴重な地域映像を4Kで上映したほか、映画フィルムの修復・デジタル復元を比較映像と共に紹介。復元を試みた際の実物のフィルムやテープを展示。フィルム補修・クリーニング/フィルムスキャニング/テレシネ(F-V変換)/キズ/パラ消し(デジタルリストア)などを劣化したフィルムやテープ類を並べて説明。ブースでは ①盤面にキズや埃が付着し、周囲が欠けているレコード盤 ②VHS 登場前に家庭にあった希少なポータブルビデオデッキ



③カビなどの劣化現象や切断が発生したビデオテープ ④かつて放送局で使用されていた1インチビデオデッキなど、いずれも今では滅多にお目に掛かることのない稀少な映像関連機器とともに、劣化したメディアを展示していた。

リーダー電子

放送業界のIP標準化推進団体「AIMS」メンバーである同社では、本展での出展コンセプトは、各社の「第一線で即戦力」となりうる製品の紹介とし、同社が取り組んでいる4Kソリューションの12G-SDI、HDR、カメラノイズメーターや4入力波形モニター、4入ラスライザなどを一堂に展示した。

■4入力対応ラスライザ「LV7390」(NEW)



最大4系統のSDI信号を同時に測定できるラスライザ。最大4系統のSDI信号を同時に測定が可能。入力信号は、3G-SDIとHD-SDIおよびSD-SDIに対応している。また測定画面は、フルHD解像度のSDIならびにDVHで出力でき、SDI出力は、3G-SDIとHD-SDIに対応している。表示画面を自由に配置できるフリーレイアウト機能を搭載しており、使用するシーンに応じて様々なカスタマイズが可能。フリーレイアウト機能が進化したエンハンスドレイアウト機能も標準搭載しており、新設のオペレーションキーによってスピーディーな操作に対応する。さらに、オプションを追加することにより、4Kフォーマット対応やラウドネス表示が可能となる。

■4K波形モニター「LV5490」:3G-SDIデュアルリンクまたはクワッドリンクと、HD-SDIクワッドリンク及び12G-SDIによる4K映像フォーマットに対応したマルチ波形モニター。



■4入力マルチ波形モニター「LV5480」:9インチフルHDのディスプレイを搭載した

マルチ波形モニター。オプションにより4Kフォーマットに対応する。3G-SDI、HD-SDIおよびSD-SDIに対応した4つのSDI入力端子を備えており、最大4系統のビデオ信号を同時に表示できる。

■HDR対応オプション「LV5490/LV5333/LV7390」:HDRゾーン表示ではSDR領域をモノクロ、HDR領域を明るさに応じた着色をすることで、HDR領域の輝度分布を容易に確認することができる。HDR波形表示ではビデオ波形からは直感的にわかりづらい、シーンリニア上の明るさをHDRのスケールとカーソル測定で読み取ることができ、ビデオ波形を見ながらHDR素材のグレーディングを行うことができる。

■ジェネレータ「LT4610/LT4600A」:「LT4610」は、1UフルラックサイズでトリプルレートSDI(3G-SDI/HD-SDI/SD-SDI)信号、アナログブラック同期信号、オーディオワードクロック信号、SILENCE信号、AES/EBUオーディオ信号が出力でき、LT4610SER02追加で12G-SDIに対応が可能。また、LV4610SER01追加でGPS/タイムコード、CW入出力、LTC入出力にも対応が可能。電源はAC2重化電源を採用している。「LT4600A」は、1UハーフラックサイズでトリプルレートSDI(3G-SDI/HD-SDI/SD-SDI)信号、アナログブラック同期信号、オーディオワードクロック信号を出力、AES/EBUオーディオ信号が出力できる。電源はAC電源を採用している。

■チェンジオーバー「LT4448」:1台で11



組のBNCとLTCのチャンネルを持ち、SDI信号、NTSC/PALブラックバースト信号、HD3値同期信号、AES/EBUデジタルオーディオ信



号、ワードクロック信号、LTC信号に対応している。SDI信号はリレーによる切り換え、それ以外は電子スイッチによる切り換えができる。また、電源は2重化しており、異常時にアラームで通知する。「LT4600A」「LT4610」と組み合わせ使用することが可能である。

■シグナルレベルメーター「LF990」:地上波、CATV、衛星のデジタル放送に対応したレベルメーター。



使いやすさを追求し、レベル、BER、MER、C/N(衛星のみ)の測定はもちろん、地上デジタル放送、衛星放送における放送局名、衛星名の表示や、レベル、BER、MERの同時測定など、さまざまな機能を搭載している。また、表示部には屋外でも見やすい5.7インチのカラーTFT液晶を採用、さらに気密性の高い筐体により、屋外、屋内を問わず使用できる。

■その他:「LV5770A」波形モニター(リップシンクデモ)、Phabrix SXEハンディー波形モニター、HDMI2.0アナライザ、HDMI2.0ジェネレータ、監視カメラテスター、4K/8K対応7.5GHzスペクトラムアナライザ等を展示・紹介した。



ジェネレータ/モニター/アナライザ「PHABRIX SxA」

アスク / ディストーム

アスク メディア&エンタープライズ (ASK M&E)事業部は、セミナー会場にて、「共同作業が必要な全ての映像制作チーム必聴 ～データ共有、バックアップ、アーカイブ～」と題して、EasyLTO の特長や優れたワークフローを紹介する講演を開催。



また、(株)ディストームとの共同出展を行なったブースでは、仙台、大阪、東京で開催された映像関連展示会において御披露目を行った、米NewTek社の最新ライブ・プロダクションシステム「TriCaster TC1」を同展でも展示。TriCasterシリーズとしては初めて4K/60pに対応し、NewTekが推進するIP伝送規格のNDIテクノロジーを利用し



「TriCaster TC1」

外部16chの入力が可能。またSkype映像を入力ソースとして追加できる機能を持っており、4K映像とIP伝送規格NDIが創る新しい映像システムである。

そのほかの業務用SkypeTXを搭載し、4ヶ所同時接続しながら相互通信可能な「TalkShow VS4000」スポーツ番組制作に適したスロー・リプレイシステム「3Play Mini」、NDIテクノロジーを利用したNewTekのソフトウェアなどを導入事例も交えて紹介した。

コスミックエンジニアリング

4K放送、12G、IP伝送、光伝送等のシステムインテグレーションに向けて設計した最新モジュールシステム「C5000シリーズ」をはじめ、低価格高性能16chオーディオモニター「SPシリーズ」「音声MIX機能付きオーディオモニター」などを出展した。

また参考展示として、手帳サイズ(B6)で多様な用途に使用できる12G-SDI高性能UHDTVミニコンバータ「UMCシリーズ」全12種類を展示した。

■モジュールシステム「C5000シリーズ」：4K～アナログ信号用までラインナップされており、すべて省電力設計で、極限まで軽量化された総アルミ製システムフレームには、300W電源を2台インストールしても5.5kg。冷却ファンは電源モジュールと一体構造で、すべて前面からメンテナンスができる。最新のデバイスで設計されたモジュール



モジュールシステム「C5000シリーズ」とUHDTVミニコンバータ「UMCシリーズ」の展示コーナー

はすべて省電力で、2RUフレームに最大で20枚、また、1RUフレームには最大で6枚インストールでき、すべてがホットスワップ可能で、SNMP対応している。

■オーディオ・ビデオ・ラウドネス・波形モニタ「SP-VM1」(1RU)／「SP-VM2」(2RU)：豊富な機能を持ち、精度の高いモニタリング性能を装備したオーディオ、ビデオ、ラウドネス、波形モニタ。エンベデッドオーディオ(3G-SDI、HD-SDI、SD-SDI)、AES/EBU、アナログオーディオ信号対応。

■16チャンネルミキシングオーディオモニタ「SP-MX1」(1RU)／「SP-MX2」(2RU)：左チャンネル、右チャンネルがそれぞれ独立して16チャンネルオーディオのミキシングができるエンベデッドオーディオモニタ。入力チャンネルのミキシングや、左右への振り分けを自在に行うことが可能。

■オーディオモニタ「SP-PM1」／「SP-PM1 twin」：スピーカ、パワーアンプ内蔵の1RUエンベデッドオーディオ(3G/HD/SD)／AES／アナログオーディオモニタ。デマルチプレクス機能、D/A機能、A/D機能、5.1chダウンミックス機能を装備している。なお、「SP-PM1 twin」は、「SP-PM1」に装備された8cmウーハーの数を倍にしたダブルウーハーモデルで、厚みのある豊かな音を再生する。

武蔵エスアイ

PHABRIX社製「Qx-12G/Qx-IP」を始めとして、HD～4Kまでの解像度の信号発生及び測定を紹介。

「Qx-12G/Qx-IP」は、1.5G/3G/6G/12G-SDIまたIP(ST2022-6)に



対応し、HD～4Kまでの解像度の信号発生及び測定機能を有する装置で、12G-SDIアイパターン測定、各種タイミング測定、波形表示、ベクター表示、HDR、WCG等の各種測定を1つのディスプレイに自由に配置して一度に監視が行なえる。



また、武蔵エスアイ製「MVX-2200/MVS-2200」のビデオサーバー(写真左)は素材を収録しながらそのファイルの再生と簡易編集が行え、スポーツ中継の撮って出しスロー、ハイライト編集等が簡単に操作できる。さらに、スタジオ内のスイッチャシステムと連動して送出行う素材ポン出し送にも対応可能な製品である。



▲オーディオモニタ「SPシリーズ」をはじめ、VUマルチメーター「VUM2 PREMIUM」、ラウドネスメーター「LoM12」、3G-SDI、HD-SDI、SD-SDIオーディオリマッピング装置「RMP1」、3G-SDI DVI出力付きマルチオーディオメータ機能装備／ラウドネスメータ「LDN-M31D」などを展示した。

■オーディオモニタ「SP101」／「SP102」／「SP103」／「SP104-16」：いずれもスピーカ、パワーアンプ内蔵の1RUオーディオモニタであり、「SP101」は3G/HD/SDエンベデッドオーディオ&アナログオーディオモニタ。「SP102」は3G/HD/SDエンベデッドオーディオモニタ。「SP103」は上記モデルに4入力の機能が加わっている。また、「SP104-16」は、3G/HD/SD-SDI、AESに対応した16チャンネルオーディオモニタ。出力には、SDI、AESのアクティブスルー出力と、アナログ選択出力、及びSDIエンベデッドオーディオのデマルチプレクスAES出力を備えている。

エレクトロ

高い解像度と幅広いダイナミックレンジで、世界中のエンジニアから高い評価を得ている、英国のモニタースピーカーのブランドであるACOUSTIC ENGINEERS社のアクティブモニター「SCM45A-PRO」を展示した。

また、高品質なダイレクトボックスを豊富にとりそろえたRadialブランドの定番モデル、「J48」をはじめ、オートスイッチャーの「SW8」なども紹介した。



フォトン

Avid, EVS, Vizrtの映像制作 4K 最新システムを出品紹介を行った。

■Avid 製品では、Media Composer とI/O インターフェイスの新製品「Artist-DN; xIQ」による4K HDR 映像制作ワークフロー、「NEXIS-E4」を核としたEDIUS/FinalCutPro/Premier など他社製ノンリニア編集システムとのシームレスな運用を提案。Media Composer 用「Cloud VM オプション」のデモも実施した。



■EVS 製品では、4K ファイル収録&スポーツ中継ソリューションとして12G/3G-SDIによる4ch UHD-4Kを実現した「XT4K」、4K収録映像をバックアップできる「XFile3」などを出品。

■Vizrt 製品では、スポーツ中継演出効果を引き出す最小構成のCG装置として、中継現場で機動性を発揮するポータブルリアルタイムCGシステム「Viz Artist Engine」、高性能なバーチャルシステムで自由自在に映像演出「Viz Virtual System」、魅力的な映像と多様なデータでスポーツ解析を表現する、スポーツ解説CG制作システム「Viz Libero」を紹介した。

エス・シー・アライアンス

オーディオ伝送のIP化が進行している現在、同社では、AXIA社製FUSIONオーディオネットワークコンソールを導入事例とともに紹介したほか、ENCO社



DADラジオ用オーディオワークステーションや、Digigram社の最新のIPテクノロジーを駆使したサウンドカードなども展示紹介した。

Fusionのオーディオネットワークコンソールシステムは、コントロールサーフェイスユニット（フレーム）+電源ユニット+ミキシングエンジンから構成されるIPオーディオネットワークコンソールで、各ユニットでAxiaネットワークLivewire+（AES67互換）を構成することで、各種オーディオリソース、制御を共有化でき、ネットワークに接続されたあらゆる入力ソースをフェーダーに立ち上げることができる。

1台のメインフレームのみで最小4フェーダーから最大24フェーダーまで対応、フレームはメインフレームと拡張フレームがあり、分割使用で最大40フェーダーまで使用可能。

フレームに内蔵するモジュールは使用するスタジオのニーズに合わせてカスタマイズすることが出来ます。インカムモジュールやTelcoコントロールモジュール等種類も多彩で、Windowsで動作する専用ソフトサーフェイスによりリモートコントロールが可能である。

テクノハウス

同社では、様々な信号の伝送ソリューションを提案。九州通信ネットワーク「QTnet」との音声/映像伝送ソリューションを紹介した。

evertz 製品では、4K出力対応の新しいマルチビューワー「3067VIP-3G-HW-2A」を紹介したほか、IPソリューションを紹介。



ConvergentDesign 製品では、「apollo」を展示。小型ながら、最大4chのHDビデオとライブスイッチャー、4画面表示にて5番目のチャンネルを同時に記録できる。

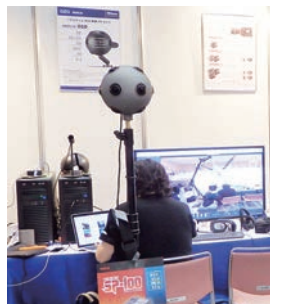
AVIWEST 製品ではスマートフォンアプリケーション「DMNG APP」と、レシーバーデコーダーディストリビューションプラットフォーム「DMNG StreamHub」を紹介。「DMNG APP」はスマートフォンでライブ中継を可能にするビデオ中継送信機材である。

Ensemble Design のスイッチャー「BrightEye NXT450」は小さな筐体にエンコーダー/デコーダー、マトリクスルーター機能を搭載。RTMPによるFacebookライブなどにも直接映像配信できる。

そのほか、RAVENNA/AES67対応放送用音声アクセサリ「SONIFEX」、置き場所を選ばないタッチコントロールミキサー「DHD.audio」なども出品した。

三友

主な出展製品は、業務用3D 360° VRカメラ Nokia「OZO」、Fotdiox ロケーション kit「J-500」、VRi リアルタイム3Dキャラクタージェネレーター「Karisma-CG」、マルチコーデック対応録画再生機「D-Stream」、タイムコードを簡単同期「TENTACLE SYNC」、可搬型バックアップ電源「LECIPELIC WALKER」など。



今年のNABで発表され、注目を浴び

た、OZOの強化されたLIVE配信機能「OZO LIVE」のテスト配信をYoutubeを配信プラットフォームとして九州放送機器展会場より行い、来場者のスマートフォンにYoutubeアプリをダウンロードして、会場からの360°VRのLIVE映像を体験するというプログラムである。

「OZO」は、プロ仕様で信頼性の高い3D 360°VRキャプチャ機能を、簡単な操作で利用可能なカメラで、滑らかな一体型ユニボディデザインに、グローバルシャッターで同期される8つのカメラセンサー（片目4K立体視）を備えている。出力ケーブル1本か、バッテリーとメモリのカートリッジ1個のいずれか一方を選択するだけで、OZOカメラはすべてのキャプチャした動画および音声を1つのファイルに出力できるため、VR制作を大きく簡略化することが可能である。

ビデオトロン



次世代の映像制作で活躍する12G-SDI対応の新製品を展示。

モジュールタイプ「DDA-70U」とボックスタイプ「DDA-30U」は、12G-SDI対応の信号分配器。

2入力各4分配、もしくは1入力8分配器として使用できる。また、ケーブル補償は12G-SDIで100メートル(L-5・5CUHD)、HD-SDIで260メートル(5CFB)。

「UHX-25U」はSingle Link 12G-SDIとQuad Link 3G-SDIとで相互変換が可能なミニボックスコンバーター。

「DDA-20」は名刺サイズの3G/HD/SD-SDI信号2分配器。オプションでUSBからの給電にも対応する。

マウスコンピューター

インテルXeon プロセッサ2基に対応した高性能ワークステーション、同シリーズのモバイルワークステーション、クリエイター向けブランドDAIV製品を展示。



MousePro「Wシリーズ」は、4K ノンリニア編集に快適な描画レスポンスを実現した高性能ワークステーション。高負荷な処理も快適に稼働し、環境シミュレーションや建築VR開発にも適している。

DAIVブランドから出展するのは、インテルの第7世代CPU搭載、最新グラフィックスGeforce GTX 1080Ti搭載モデル。リアルタイム3DCGの映像制作、編集、VR、ゲーム開発など多様なニーズに対応。高解像度の画像処理などに最適化された次世代グラフィックス性能を体験できる。

ニコンシステム



主に放送事業者、通信事業者、ポストプロダクション向けに「デジタル・コンテンツ制作支援ソリューション」をテーマとして展示。

VQ-BB10: 映像素材の品質をリアルタイムで検査できる装置。

光点減・ラウドネス・テープノイズ等を自動で検査でき、完パケ及び受入検査やDVD/BD用のマスターテープのノイズチェックに最適な製品。

VQ-BB20S: アナログテープの品質をリアルタイムで検査できるシステム。テープノイズを自動で検査でき、映像アーカイブシステムとの連携によって貴重なアナログテープのファイル変換作業を効率化する。

ビデオサービス

撮影機材のレンタル業務を行う同社では、ハイスピードカメラPhantom Flex4Kを中心に紹介。NKLのBACKSTAGE製品の取り扱いを行っていることもアピールした。



ビジュアルグラフィクス



サブスクリプションライセンスとなったAUTODESK FLAMEの最新バージョンの2018をiMacにて紹介。

また、クリエイターの為のストレージブランドLacieより、「Thunderbolt3」及びUSB3.1

デュアルインターフェース搭載の「Lacie_6big」をノンリニア編集製品のストレージとして紹介した。

共信コミュニケーションズ



トータルポストプロダクションシステムSGO「Mistika」をはじめ、Avid製品では「Artist-DN|xIQ」と「NEXIS|PRO」をメインで紹介。4K・8Kフィニッシングシステム

「Mistika」は、本年のNABショーで発表した新機能を同展でも紹介。また、QuantumストレージによるStorNextとのコラボレーションにより、UHD・HDR、HFR、8K、VRのワークフローの提案も行った。また、Avid製品は、4K/HD (HDR)対応ローコスト編集システムやMA編集までのトータルシステムを展示。共有ストレージ「NEXIS|PRO」を中核に構築し、Media ComposerとI/Oインターフェースの新製品「Artist-DN|xIQ」による4K HDR映像制作ワークフローなどを紹介した。

エヌジーシー

QNAP社「TVS-1282 T3」のサンダーボルト3、4ポートおよび10GB ASE-T 2ポートを搭載し、ウィンドウズ/Macから接続ができるNASサーバーや、Mac環境での映像制作者向けに、HP製LTO7ドライバー、ATTO製ThunderLink、Starchive LTFS



for Mac、Rapid Copyを組み合わせたLTO7 LTFS for Macアーカイブソリューションをデモ。また、HighPoint Technology製RocketStor高速RAIDディスクを参考出展した。

一方、撮影現場向けにはCARTONI社のプロフェッショナルカメラアシストFOCUSシリーズ、P20ペディスタル、NABショーでリリースした新製品のSDS三脚システムを展示。